

# 阿仁合駅とお座敷車両がリニューアル

秋田内陸縦貫鉄道阿仁合駅とお座敷車両がリニューアルし、駅舎お披露目会と車両完成式典が、4月21日(土)に阿仁合駅で行われ、国内外の交流拠点としての発展を願い完成を祝いました。



開放感のある駅舎内

トレインビューカウンター

「しあわせの鐘」を鳴らし完成を祝う参加者

## ◇訪れた人が 幸せになれる駅に

リニューアルされた阿仁合駅舎は、北緯40度に位置することから、数字の「4」を基調として「4」が左右対称で背中合わせとなるデザインになっており、駅の名を「しあわせの駅(4合わせの駅)」としています。駅舎内は、待合室を開放感のあるガラス張りとしたほか、列車や自然を見ることが出来る「トレインビューカウンター」を設置。また、周辺観光の情報発信拠点として観光案内所を新設しました。乗降客の心が和む明るい駅となっています。お披露目会では、秋田内陸縦貫鉄道株式会社の吉田裕幸社長が「阿仁合駅は地域の宝。駅の価値と魅力を磨き、皆さんからより一層愛される駅を目指したい」などとあいさつ。津谷市長は「地域の人たちが夢と希望を持って内陸線を応援する機運が高まった。地域を愛する輪を広げ、内陸線を国内外に発信していきたい」などと祝辞を述べました。

## ◇全国から 寄付を集めリニューアル

お座敷車両は、全国から寄付を募った「秋田内陸線夢列車プロジェクト」の寄付金1854万4400円によりリニューアルしました。外観のデザインは、地元阿仁中学校生徒の考案によるもので、側面にマタギとクマのシルエットが赤とベージュ色で描かれているほか「又鬼」のロゴマークがあしらわれています。車内は全面畳張りに新調され、トイレが洋式になったほか、阿仁産のオニグルミの木を天板に使ったテーブル、熊毛の敷物、草履の展示など、マタギ文化を感じることが出来るつくりとなっています。完成式典では、夢列車プロジェクトの西木正明実行委員長が「多くの人に楽しんでもらえる立派な車両ができた。協力してくれた方々に感謝する」などと完成を喜びあいさつを述べました。



車両の内部

式典でのテープカット

車両の外観

# 大型連休!

## 市内各地でにぎわう



▲入場券を買い求める長蛇の列

▲大人気の子グマとのふれあい

▲エサを求めるツキノワグマの仕草に歓声



▲竿に手応えあり!(遊遊ガーデン)

ゴールデンウィーク(4月28日、5月6日)の北秋田市内は、雨や風の吹く日があったものの、おおむね好天に恵まれ、市内の観光施設や文化施設には多くの市民や観光客が訪れ、にぎわいを見せました。阿仁くまくま園では、今年生まれのツキノワグマの子グマとのふれあいや、ヒグマ舎運動場の探検、移動動物園でのふれあい体験など盛りだくさんのイベントが行われ、期間中に4861人が来場し、家族連れなどで連日にぎわいました。また、遊遊ガーデンでは、イワナの溪流釣りが体験できる釣堀が開かれ、多くの観光客が釣り糸を垂れて、イワナを釣り上げていました。伊勢堂岱遺跡には、期間中に500人が、縄文館には707人が訪れました。ジュニアボランティアガイドが遺跡内や縄文館を案内し、遺跡の魅力伝えました。



▲イワナの溪流釣り体験(遊遊ガーデン)

▲来場者に遺跡の魅力を丁寧に伝えたジュニアボランティアガイド(伊勢堂岱遺跡)